

工管宇 4年ぶりに大規模防災訓練 県央産技校生ら130人が応急対応

宇都宮市工管事業協同組合(中村勝理事長)は14日、組合創立70周年の節目に県央産業技術専門学校で総合防災訓練を開催した。4年ぶりとなる大規模訓練には組合員や大田原管工事業協同組合員、足利市上下水道設備事業協同組合員、県央産技校建築設備科1・2年生ら約130人が参加。地震被害を想定した配水管の応急復旧や応急給水訓練を行い、宇都宮市上下水道局幹部職員、全国管工事業協同組合連合会、東京都の三多摩管工事業協同組合ら多くの来賓が見守るなか積み上げた経験、技術・技能を披露した。



馬上議長

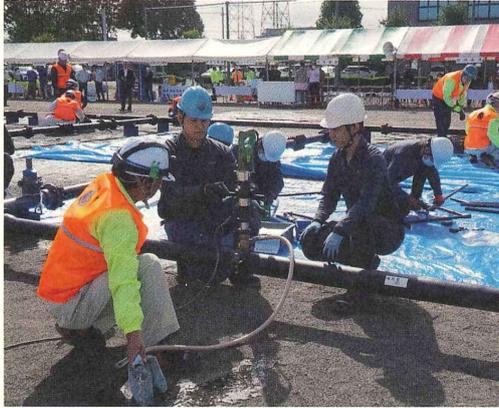


大竹管理者



中村理事長

訓練は市上下水道局と締結している災害時の応急対応業務協力協定に基づくもの。今後発生が懸念されて



産技校生も参加した仮設給水栓設置

いる首都圏直下型地震に備え、市内で震度6強の地震で生じた水道施設への被害対応を想定した。開始にあたり、中村理事

示。

大竹信久市上下水道事業管理者は「水道事業を円滑に推進していくためには組合員皆さんの豊富な知識と高度な技術が不可欠。様々な面で連携を強化していきたい」と佐藤廉一市長のあいさつを代読。市議会の馬上剛議長は「実際の災害現場を想定した防災訓練は大変重要なものと認識している」と訓練の成果に期待した。

参加訓練では中村理事長が災害対策本部長を務め、上澤智治災害対策検討委員長が号令をかけ組合員、産技校生を招集。人員、資機材を確認し、行政からの要請に対応した。応急復旧は会場に設置した配水管で漏水修理、仮設給水栓設置、木栓による止水、液体窒素を使用した凍結工法の4つの訓練を連続で実施。青年部会員や大田原管工事業協同組合員、足利市上下水道設備事業協同組合員、訓練生らがそれぞれの作業を手際よく短時間で完



配水管の漏水修理



液体窒素を使用した凍結工法

了させた。応急給水訓練はトラックに搭載した容量2トンの災害用給水タンクを使用し、見学者に応急給水袋を手渡し給水した。

企業防災フェアのブースには日之出水環境設備、清水合金製作所、前澤化成工業、前澤工業、LIXILが災害関連商品を展示。マシホールトイレや浄水装置

など災害発生時に不可欠なライブライン機材が来場者の関心を引いた。終了後、中村理事長は「訓練すべてが迅速かつ的確に対処できたことは大き

な成果。また、参加した県央産業技術専門学校の若い力を見ることもできた。今後の管工事業を担ってもらうものと期待している」と訓練を総括。引き続き大規模災害の発生に備えた取り組みを推進することも、市をはじめ関係者の理解を得ながら強化していく決意を表明した。

大竹上下水道事業管理者は「組合員の皆さんが一致協力し日頃からの取り組みを遺憾なく発揮されたことに感服した。昼飯を問わずライブラインを守る皆さんの卓越した技術、技能を市民にも周知していかなければならないと改めて感じたと講評した。」